

[さ行]

P.43	水道管路情報管理システム (GIS)	給配水管の布設状況をコンピュータで検索できるシステム。事故などにより管が折損したときに、管の材質や布設年次、バルブの位置を即座に確認することができ、復旧作業の迅速化が図られ、被害を最小限に食い止めることができる。
P.13	水道水質検査優良試験所 規範 (水道GLP)	社団法人日本水道協会が水質検査機関における品質保証及び品質マネジメントシステムの信頼性を確保するための規格として制定したもので、水質検査機関が実施する水質検査が適正に実施されていることを認証するもの。本市の水質検査部門は平成18年4月に全国で7番目の認定を受けており、これまで培ってきた本市の水質検査の信頼性と技術力が第三者機関から認められた。
P.20	石綿セメント管	石綿繊維 (アスベスト)、セメント、珪砂を水で練り混ぜて製造したもの。アスベストセメント管、石綿管とも呼ばれる。長所としては耐食性、耐電食性が良好であるほか、軽量で、加工性が良い、また価格が安いなどがあげられる。一方、強度面や耐衝撃性で劣るなどの短所がある。原料となる石綿繊維の安全性への問題から、現在では製造されていない。

[た行]

P.16	耐震診断	構造物の耐震性能を評価する方法で、設計図書、地盤条件等をもとに、構造物が損傷して修復不可能であっても崩壊しない程度の耐震性能を有しているか否かを診断する。
P.32	太陽光発電システム	太陽電池による発電システムをいう。本市では信濃川浄水場構内に太陽光パネルを設置して、施設内で消費する電力の一部を太陽光発電で賄っている。
P.20	(施設の)ダウンスライジング	運用コストの削減や規模の適正化など効率化を目的として、従来施設よりも小型化を図ること。
P.46		
P.21	鋳鉄管	鉄、炭素 (含有量2%以上)、ケイ素からなる鉄合金 (鋳鉄) で作られた管。1959年に、より靱性の強いダクタイル鋳鉄管が規格、製造化されたことにより、現在はほとんど製造されていない。
P.14	貯水槽水道	ビルや共同住宅など3階以上の建物に給水する際に、一旦受水槽に水を貯めて、その後ポンプを使って給水するシステムのこと。簡易専用水道及び受水槽の有効容量10m ³ 以下のもの (いわゆる小規模貯水槽水道) の総称である。
P.40		
P.14	直結増圧給水方式	ビルや共同住宅など3階以上の建物に給水する際に、建物の給水管に増圧給水設備 (増圧ポンプ・逆流防止装置) を直接取り付け、受水槽を経由せずに給水する方式。
P.23	逓増型料金体系	使用水量が増すにつれ、1m ³ あたりの単価が高くなる料金体系をいう。本市では、水量区分による段階別逓増料金制を採用している。

[た行]

P.30	電子マネー	決済手段として用いるため、金銭的価値を電子情報化したもの。インターネット上でデータとして流通する形態のものと、ICカードに情報を書き込みクレジットカードのように利用する形態のものがある。
------	--------------	---

[な行]

P.14	鉛給水管	配水管から各建物に分岐する給水管のうち、管体の材質に鉛を使用している給水管のこと。柔軟性に富み、加工が容易なことから古くから使用されてきたが、鉛の溶出性の問題や外傷に弱いという特性があるため、本市では昭和57年7月以降新たに給水管として使用することを認めていない。
P.39		
P.43		
P.4	新潟市行政改革プラン 2005	本市の行政システムの構造的改革を進めていくための行動規範を示したものであり、本編と工程表からなる。市民協働の推進や民間委託等の推進、財政の健全化などそれぞれ工程と数値目標を設定し、実施していくことにより、市民満足度の高い行政運営を目指す。
P.16	新潟市水道局震災対策計画	地震が発生した場合でも可能な限りの給水継続、被害地域の限定・縮小化、迅速な被害地域の特定と復旧及び広域応援体制を実現するために、平常時に確立すべき予防策と応急対策をまとめた計画で、本編と資料編からなる。
P.3	ニューパブリック マネジメント (NPM)	民間企業における経営理念、手法、成功事例などを可能な限り行政現場に適用することで、行政部門の効率化や活性化を図るという考え方。

[は行]

P.19	配水管網のブロック化	給水区域を配水池及び配水ポンプを核にいくつかの配水区域に分割し、さらにその中を配水ブロックに分割して、ブロックごとに水量及び水圧を管理をするシステムをいう。本市では平成9年に配水ブロックシステム計画を策定し、配水管網のブロック化を推進している。
P.19	配水ブロックシステム計画	水道の都市基盤施設としての重要性を踏まえ、平常時の安定供給はもとより、地震をはじめとする災害や濁水に対してもより強い水道を目指していくための計画。具体的には被害地域の限定化対策及び管網の制御機能の向上対策を目的としている。平成17年度末現在、旧新潟市域に10の大ブロックと75の小ブロックが構築されている。
P.39	pH	水溶液の酸性、アルカリ性の度合いを表す指標。中性は7で、7より低いほど酸性が強くなり、高いほどアルカリ性が強いことを表す。水質基準値は、水道水が弱酸性から弱アルカリ性である値として「5.8～8.6」と設定されている。